

氏名(本籍)	寺島瞳(神奈川県)
学位の種類	博士(心理学)
学位記番号	博甲第4733号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	対人関係における操作の機能的側面に関する研究
主査	筑波大学教授 医学博士 小玉正博
副査	筑波大学教授 教育学博士 田上不二夫
副査	筑波大学教授 文学博士 松井豊
副査	筑波大学講師 博士(医学) 森田展彰

### 論文の内容の要旨

(目的) 本論文の目的は、対人関係における「他者操作」について以下の4つの課題を通じて実証的に検討することである。すなわち、①操作の測定尺度の開発を行い、②それを用いて操作を行う要因について明らかにすること、③適応的および不適応の側面から操作という行動がもたらす結果について明らかにすること、④操作をされる側の検討を行うことで、操作的関係における相互作用の様相を明らかにすること、である。

(対象と方法) 本研究は主に大学生総計2038名を対象に、質問紙法による10の調査が行われた。調査に際しては倫理的問題を配慮し、縦断調査以外は無記名で行われた。本論文は、理論的検討(第1章、第2章)と実証的検討(第3章～第7章)およびまとめとして第8章の総合考察からなる2部構成である。

(結果) 操作をあらゆる記述を収集し、操作を測定する尺度を作成し、その信頼性・妥当性を検討した(研究1, 研究2)。その結果、“相手より上の立場であることをアピールするか(自己優越的操作)、相手より下の立場であることをアピールするか(自己卑下的操作)”という手段の二側面と、“相手の行動を操作するか(行動操作)、相手の感情を操作するか(感情操作)”という目的の二側面をかけた4つの下位尺度からなる操作方略尺度が作成された。次に、操作に影響を与える個人内要因について検討した(研究3)。操作には、不安定な自己評価、依存欲求、注目賞賛欲求、小さなことにこだわる認知傾向、不安や頭痛、他者から拒否されたくないために他者に敏感になる態度、などが関連していた(研究4, 研究5)。また、操作は自分や相手の性別によって使い分けられ(研究6)、全般的に親しい人に対して行われることが明らかになった(研究7)。三番目に、操作を行うことによってもたらされる結果について検討した(研究8)。操作者は操作を行うことによって満足が得られるだろう期待していた。実際に、道具的サポートを上手く引き出そうとする操作のみを使うタイプの人は、日常生活に適応していた。さらに自己優越的な操作を行うことで、不適応状態の解消といった期待された結果が得られていた。よって、操作にも適応的な機能があることが明らかになった。しかし、自己卑下的操作は不適応状態を悪化させており、また全般的に操作を行うことは対人関係を悪化させるといった悪影響もあった(研究9)。最後に、操作をされる側についての検討を行った(研究10, 研究11, 研究12)。相手の状況に巻き込まれて動揺してしまうことより操作をされていた。また、操作者は相手に一方的な関係を求める一方で被操作者は相手に双方向的な関係を求めている。お互い自信

を持って自立した付き合い方のできない二者関係で操作が起きていた。

(考察) 上記の検討により、操作は一種の防衛反応であると考えられた。しかし、操作には適応的に機能するものと不適応的に機能するものもあり、全般的に対人関係を悪化させていた。本研究の知見から、自尊心の強化、開放的認知体制、積極的な他者への関わりへの方向付けなどが、不適応的対人操作を適応的な方向に移行するのに有効であることが考えられた。また、操作による不適応的な結果を操作者自身に認識させるといった介入法も考えられた。操作について包括的に実証的検討は本研究が初めてであり、本研究の学術的な意義についても述べられた。

## 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はまず、臨床的心理学領域で注目されながら、その本格的な研究が行われていなかった「対人的操作」という現象を取り上げ、それを実証的、体系的に明らかにした点で独創的であり、非常に意義がある。また、「操作」という現象を包括的に問題整理し、理論的な吟味を背景に開発された測定尺度を駆使して行われた実証的検討も堅実であり、博士論文として十分な水準と内容を有するものと評価できる。ただし、本研究は大学生という限られた対象によって行われた横断的調査研究であるため、その知見も限定される。具体的には、質問紙調査と現実場面とのリンケージ、操作－被操作関係の力動的構造、操作と対人関係の時系列的過程および適応状況との関連性等の諸側面への検討がまだ十分とは言い難い。今後、本研究の価値をより一層高める上でも、「操作」という対人的現象に表出される社会的文脈上の適応・不適応に関する理論をさらに精緻化するとともに、よりダイナミックなアプローチを考慮した研究の掘り下げが望まれる。

よって、著者は博士（心理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。